# はじめに

人と自然の博物館（ひとはく）は、本年度も、調査・研究、生涯学習支援、地域の活性化、シンクタンク活動など、多方面にわたって精力的に取り組んでまいりました。

調査・研究活動の一環としまして、丹波市と丹波篠山市に分布する篠山層群から採取した岩砕から化石を取り出す「化石剖出ボランティア」や同層群の「石割調査ボランティア」の募集を継続し、人材育成に取り組むとともに恐竜化石関連の研究活動を推進しました。標本・資料の展示では、県内各地の半自然草原の歴史や草原で見られる多様な生物について紹介する展示特別企画「ひょうごの草原～人が育んだ草原と生き物の歴史～」や、25 万点にのぼる頌栄植物標本コレクションを活用した収蔵資料展「頌栄短大植物標本コレクション～そんなに集めてどうするの～」を開催したほか、普段は見ることができない資料をテーマ毎に蔵出しする収蔵資料スペシャル企画「標本のミカタ～コレクションから新しい発見を生み出す～」を全 5 回開催するなど、ひとはくが所蔵する標本・資料の積極的な活用を図りました。

新型コロナウイルス感染症の蔓延の下、教育普及活動として、臨時休校中の児童・生徒が家庭で学び、楽しめる教材「ひとはくキッズのお道具箱」や、博物館に足を運べない県民の方々に向けて貴重な映像資料を公開する「ひとはくデジタルアーカイブ」、動画サイトで視聴可能な「ひとはく研究員 Web セミナー」といったオンラインコンテンツを充実させました。また、恒例の市民研究フェスティバル「共生のひろば」は、オンラインで開催し、外出が困難な状況でも研究発表や活動報告の機会を確保しました。

兵庫県では、少子高齢化の進展や人口減少、東京一極集中の是正等の構造的な課題に対応し、将来にわたり活力ある地域社会を構築していくため、地域創生に向けた取り組みが進んでいます。その中で、当館の果たす役割はますます重要になってきています。地域の自然や文化に関する資料の収集や研究はもちろんのこと、それらを活用した環境学習や地域活性化を支援する組織として、今後も活動を推進してまいります。

昨年から、新型コロナウイルス感染症により博物館をめぐる状況は大きく変化しています。このような中ひとはくは、来年には開館 30 周年の節目を迎えます。博物館を様々な面で支えていただいた皆様に心からお礼申し上げますとともに、今後とも成熟した博物館として社会に貢献し続けられるよう、厳正なご批判と、有益なご指導をいただければと期待いたします。

兵庫県立人と自然の博物館
館 長　中瀬　勲